

第74次印旛地区教育研究集会
総合的な学習の時間分科会

生徒の主体性を生かした学習による 問題解決能力の育成

～地域と豊かに関わる体験的な活動を通して～



成田市立久住中学校
片山 園葉

1 研究主題

生徒の主体性を生かした学習による問題解決能力の育成

～地域と豊かに関わる体験的な活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

学習指導要領の第1の目標は、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを旨とする」としている。その学習過程を通して目指す生徒の資質・能力として

- | |
|--|
| ①探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。…知識及び技能 |
| ②実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。…思考力、判断力、表現力等 |
| ③探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。…学びに向かう力、人間性等 |

とある。本校の実態や地域の特色から、生徒自身の興味・関心に基づき、地域や学校の特色に応じた内容を踏まえて、地域の人材から伝統文化を学ぶことで、生徒の主体的な学習を促し、問題解決能力を育成することができるのではないかと考えた。

(2) 本校教育目標から

本校の教育目標	一人一人の学びを大切にし、生きる力を育成する 学校・家庭・地域社会との連携および協働を通して
---------	---

めざす生徒像	<input type="checkbox"/> 自ら考え、判断し、表現することのできる生徒 <input type="checkbox"/> 他人を思いやることのできる豊かな人間性をそなえた生徒 <input type="checkbox"/> 運動に親しみ、健康に生活できる生徒
--------	---

上記は、本校の教育目標とめざす生徒像である。また、学習指導要領と本校の教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間の目標を「他者や地域と豊かに関わる体験的な活動や追求活動等を通して、自ら見いだした課題の解決・追求に向けて多様な学びの力を身に付けるとともに、思いやりのある豊かな心情を育て、自己の生き方を考える態度を養う」としている。

家庭だけでなく、地域社会との連携や協働をすることで、久住地区の伝統文化を継承したいという地域の方々の思いを受け止め、豊かな人間性を育むことができると考える。また、地域の方々と交流を深める中で、体験的な活動や追求活動を通して、自ら考え、判断し、表現することで、問題解決能力を身につけ、生きる力を育成することができるようになるであろうと考えた。

(3) 地域の実態から

5年前の令和元年度の生徒数は130名、令和6年度は205名、来年度は230名の在籍予定となっており、本校の生徒数は増加傾向にある。多くの生徒はJR久住駅周辺に新しく開発された久住中央地区に住んでおり、この地区は子育て世代の核家族の割合が多い。一方、久住中央地区以外の旧

久住地区である磯部、飯岡、荒海、幡谷、水掛、土室、大室、芝、大生、成毛、新泉、小泉は、久住中央地区と比べて面積が広い。しかし、森林や田畑の占める割合が高く、旧久住地区から通学する生徒数は全校生徒の約15%と少ない。久住中央地区を除いて少子高齢化が進んでいる。久住の学区は一小一中で、久住小学校も久住中学校も、地域の方々との交流の機会が多く、シルバー人材による登下校の見守りや、地区敬老会を通じた発表会などが行われている。生徒と地域の方々との良好な関係をより深めることで、生徒が地域貢献について考えたり、行動したりすることができると思う。

以上のことから、本主題を設定した。

3 研究の仮説と手立て

(1) 仮説

- ①学年や教科の枠を越え、生徒の興味関心に基づく学習をすることで、自ら課題を見つけ、学び、考え、問題を解決する能力が身につくだろう。
- ②地域の伝承芸能に親しむことにより、自分を取り巻く環境について考えることができるだろう。

(2) 手立て

- ①自分の興味・関心をもとにテーマを決め、追求し、工夫して発表させることで、問題を解決するための能力を養う。
- ②伝承芸能の練習や発表を通して、自己のよりよい生き方を考える機会を与える。

4 実践事例

第2学年、第3学年「伝承芸能」

(1) 課題設定の理由

各学年が1クラスであった15年以上前から、総合的な学習の時間に、地域の方々から佐原囃子を教わっていた。2・3年生が佐原囃子を合同で教わっていたが、生徒数の増加にともない、テーマ別学習や切り絵などの選択肢が増えていった。

令和2年度から4年度の3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動を行うことができなかったが、地域の方々から提案をしていただき、令和5年度から活動を再開することとなった。活動再開にともなって、3学年が佐原囃子と切り絵のどちらか一方を選択して発表を行い、2学年が久住地区の歴史について調べ学習を行い、発表する形をとることで、生徒数の増加に対応した。

「久住の歴史」では、久住地区を中心として、明治時代以降の出来事や、活躍した人物、名所旧跡についての講話を聞く。その後より詳しく調べたい地区を決め、同じ地区を選んだ生徒で協力をしながら資料をつくり、発表を行う。「佐原囃子」は、成田の祇園祭で演奏されている佐原囃子を、最初に指導し、広めたのが久住地区の人たちであるという縁があることを学ぶ。篠笛だけでなく、鼓や締太鼓などを分担して練習し、発表を行う。「切り絵」は、日本の伝統工芸の1つであり、久住地区の方から講師をお招きして制作を行う。自分で絵を決めて、デザインカッターで切り抜いたものを台紙に貼って完成させる。完成した作品を披露しながら、発表を行う。

これらについて地域の方々から教わったことを生かしながら、全校の生徒へ向けて発表を行うことで、地域の伝統文化を大切にしたり、新たな知見を得たりすることで、問題解決能力が育つであろうと考えた。

(2) 単元の目標

生徒の実態に応じ、自分の興味・関心をもとにしてテーマを決め、追究し、発表させ、課題解決をさせていく中で、自己のより良い生き方を考えさせるようにする。

(3) 指導と評価の計画（7時間）

2 学年「久住の歴史」

	時数	指導内容	○評価（観点）【方法】
課題の設定	1	・ 講師紹介 ・ ガイダンスを聞き、今後の流れを確認する。	
情報の収集	1	・ 利根川の歴史について講話を聞く。 杉原先生に作っていただいた資料「利根川を調べてみよう」をデータ化し、タブレットパソコンで見ながら講話を聞く。	○外部講師の講話から久住の歴史について聞き、自身のワークシートにまとめている。 (知識及び技能) 【ワークシート】
	1	・ 明治以降の成田の歴史について講話を聞く。 大里先生より「図説 成田の歴史について」の講話を聞き、成田市発刊「図説成田の歴史」から、久住の地名が見られる項目の解説を聞く。	
	1	・ 久住全体の名所旧跡や知人名の業績等について講話を聞く。 長尾先生から「久住歴史散歩」、楡垣先生から「時宗寺院の縁起と幡谷の歴史」について講話を聞く。 ・ 次回の活動について検討する。 久住中学校版「故郷歴史散歩」と題した、パンフレットの作成の仕方とグループ分けについて説明を聞く。	
整理・分析	2	・ 12の地区に分け、グループ別活動を行う。 「成田の地名と歴史・大字別地域の辞典」やインターネットを使用して、グループ毎に大字1地区を選ぶ。 地図に学んだことを追加し、散歩案内図を作成する。	○外部講師の講話から久住の歴史に興味をもち、進んで調べている。(学びに向かう力、人間性等) 【ワークシート】
まとめ・表現	1	・ 各グループ3分で、発表を行う。 散歩案内図を生かして、久住地区それぞれの歴史について発表を行う。 相互評価を行い、評価が高かった2グループが後日全校の前で発表を行う。	○詳しく調べた内容についてロイロノートにまとめ、伝わりやすいよう工夫して発表する。(思考力、判断力、表現力等)【発表資料、相互評価】

3 学年「佐原囃子」

	時数	指導内容	○評価（観点）【方法】
課題の 設定 情報の 収集	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師紹介 ・ ガイダンスを聞き、今後の流れを確認する。 ・ 佐原囃子と久住の関係性について講話を聞く。 ・ 篠笛の演奏の仕方について説明を聞く。 篠笛を1人1本貸し出し、資料「佐原囃子集 成」や講師の指使いを見ながら練習を行う。 	<p>○外部講師の講話から佐原囃子に興味をもち、進んで練習を行う。（学びに向かう力、人間性等）</p> <p>【ワークシート】</p>
整理・ 分析	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篠笛の音を出せるようにする。 ・ 譜面に合わせた指使いを行い、演奏できるようにする。 ・ 鼓の音に合わせて演奏できるようにする。 譜面や講師の指使いを見ながら練習を行う。早い段階で音が出るようになった生徒を中心に6人程度の班をつくる。班ごとに話し合いをしながら、練習を行う。 鼓を叩く生徒を数名選出し、掛け声に合わせて演奏ができるように練習する。 	<p>○講師の指導や班員の助言を聞き、篠笛の演奏技術を高める。 （知識及び技能）</p> <p>【観察、パフォーマンステスト】</p>
まとめ ・ 表現	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校生徒に向けて発表を行う。 全校生徒に向けて、佐原囃子の歴史について伝えたり、興味をもってもらったりすることができるよう、発表内容について工夫する。 	<p>○佐原囃子について、歴史や魅力が伝わるよう工夫して発表する。 （思考力、判断力、表現力等）【発表資料、他者評価】</p>

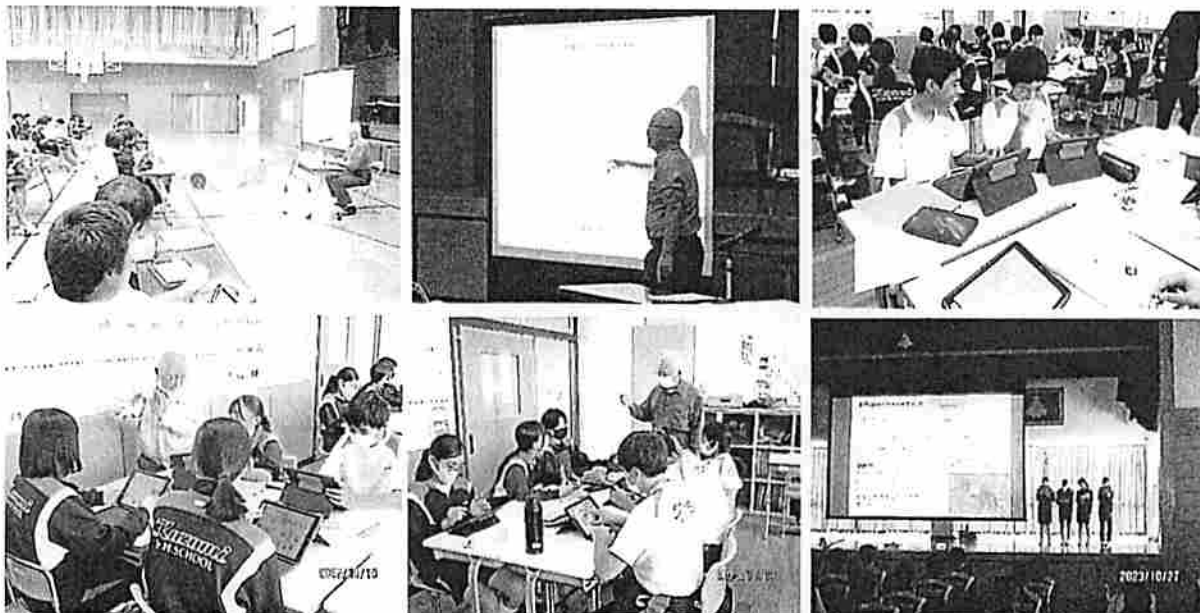
3 学年「切り絵」

	時数	指導内容	○評価（観点）【方法】
課題の 設定	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師紹介 ・ ガイダンスを聞き、今後の流れを確認する。 切り絵に用いる道具について説明し、1人1人に配布する。講師が用意した初心者用の絵を用いて、切り絵の技法を覚える。 	<p>○講師の指導を聞き、切り絵の技術を高める。（知識及び技能）</p> <p>【観察】</p>
情報の 収集 整理・ 分析	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者用の絵を完成させる。 ・ 切り絵にしたい絵を選び、作成する。 ・ 技術の向上に努める。 タブレットパソコンを使って自身が作成したい絵柄を選び、トレースする。台紙をデザインカッターで切り抜き、講師の助言を受けながら技術の向上に努める。作品として映える色紙を選んで裏から貼り付け、完成させる。 	<p>○自身の技術やテーマから考えて、自身で絵を選び、作品を完成させようとする。（思考力、判断力、表現力等）【作品】</p>

まとめ ・表現	1	・全校生徒に向けて発表を行う。 全校生徒に向けて、自身が工夫した点や苦勞した点を説明しながら発表を行う。作品が映える発表の仕方を工夫する。	○切り絵の魅力や技術について、意欲的に発表を行う。(学びに向かう力、人間性等) 【発表内容】
------------	---	--	---

(4) 学習のようす

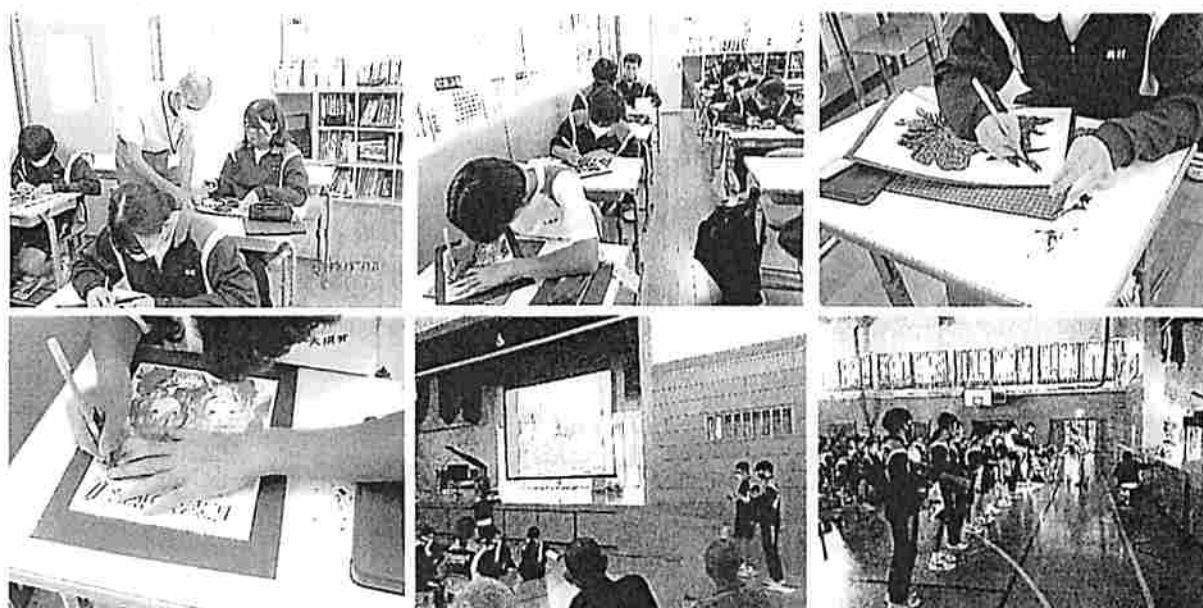
2 学年「久住の歴史」



3 学年「佐原囃子」



3 学年「切り絵」



5 成果と課題

計画では7時間であったが、活動を振り返り、自己の課題や身についた力を分析するための時間を設けた。振り返りはアンケート形式で行い、事前と事後のアンケートの比較から、結果を考察する。

【成果】・「身の回りのものやできごとから、調べてみたいことはありますか」という質問は肯定的な回答が43.8%から53.9%になった。また、「体験や学習をしていることから、課題や目標を見つけることができましたか(ありますか)」という質問は61.6%から63.4%になった。生徒の興味関心に基づく学習を行うことで、自ら課題を見つけ、調べようとする意欲が上がったと考えられる。(仮説①)

・「他の人の意見や考えを聞き、それを自分の意見や考えを参考にしたことはありますか」という質問は肯定的な回答が72.6%から73.0%になった。また、「グループで学習するとき、話し合いや会議等で物事を解決しましたか(していますか)」という質問は65.7%から69.8%になった。グループ学習をするときに、他者の意見を受け入れ、話し合いを進めていくことができた生徒が多かったと考えられる。(仮説①)

・「伝承芸能を学習して、伝承芸能に興味をもちましたか(事後アンケートのみ)」という質問は、肯定的な回答が54.3%であった。実際に体験した切り絵の繊細さや、篠笛を吹けるようになったことだけでなく、どのように受け継がれてきたのか、歴史の流れや今と昔の違うところなど、伝統を受け継ぐという視点で興味をもった生徒もいた。地域の伝承芸能に親しみ、自分を取り巻く環境について考えることができたと考えられる。(仮説②)

【課題】・「他の人の意見を聞く時、自分の意見と比べながら考えることができましたか(ありますか)」という質問は、肯定的な意見が67.1%から66.6%になった。また、「グループで学習したとき、グループの中で自分の役割と責任を果たしましたか(果たしていますか)」82.2%から65.1%になった(「どちらでもない」が増えている)。成果の通り、話し合いを協力して進めることができた反面、個人が自分の意見や考えをもたないまま、数名の意見で話を進めていた可能性がある。1グループあたりの人数を減らし、話し合いに参加する機会を増やす必要がある。(仮説①)

- ・「計画的に学習を進めることができましたか（できますか）」という質問は、肯定的な回答が42.4%から38.9%になった。1時間毎の授業の課題やまとめを説明したり、完成した例を掲示したりすることで、グループ活動においても先を見据えて話し合いやまとめを行うように、あらかじめ指導する必要がある。そのためには、関わる教員や地域の方々と、めざす生徒像を共有する時間が必要である。（仮説①）
- ・「たくさんの資料から、さまざまなものを集めることができましたか（できますか）」という質問は、肯定的な回答が58.9%から50.8%になった。佐原囃子は限られた資料を用いて練習を行うことが多かったため、佐原囃子について発表を行う際に資料を活用する指導をするべきであった。久住の歴史は口頭の説明が多く、パンフレット作成に必要な資料や知識がほとんどない状態で調べ学習を進める形になった。それを踏まえて、令和6年度は講話に必要な資料やパンフレットの完成例を作成し、先を見据えたグループ活動が行えるようにした。（仮説①）

総合的な学習の時間を充実させるための体制づくりについて、次年度に向けて考える。

【成果】・資料やインターネット環境が充実しており、滞りなく授業を進めることができた。

- ・佐原囃子は1曲のみとなったが、「あんば踊り」を踊りながら発表しようと生徒から提案があり、工夫した発表をすることができた。
- ・切り絵の発表については、限られた時間の中で、発表の方法を工夫して全員の作品を披露することができた。

【課題】・生徒数の増加により、2学年と3学年で別々の内容について学習することとなり、学年を超えた学習（技術の引き継ぎ）ができない。

- ・時期的に教員間の引き継ぎが難しく、地域の方への依存度が高い。
 - 教員は2年間連続で指導できるように担当を組む。
- ・佐原囃子は流派によって教え方が変わるため、年度ごとに楽譜が異なる可能性がある。
 - 同じものを使って指導できるように毎年資料を保存しておき、講師に早く資料を確認してもらうための打ち合わせを設ける必要がある。
- ・久住の歴史と佐原囃子は、調べる時間や練習の時間が7時間では足りなかった。
 - 令和6年度は時数を8時間に増やし、久住の歴史はグループ活動を4時間に増やす。佐原囃子は夏休み期間前に篠笛の音がある程度出るよう、昼休みに音楽室を開放して自主練習の機会を設けたり、夏休みに持ち帰りをして練習ができるようにしたりする。

以上より、地域の伝承芸能に親しむことで、生徒が興味関心をもち、互いに協力しながら問題解決へ話し合いを進めていくことができるとわかった。しかし、生徒1人1人が自ら考え、問題解決能力を身につけることができるよう、教員間や地域の方々が、めざす生徒像を理解し、意図を互いに理解して授業を進めることが不可欠である。

資料① 久住の歴史

0 久住中学校総合的な学習・郷土の歴史

「まとめ」について

私達は、生徒の皆さんに、「ふるさと久住の歴史」を知ってもらい、これからの人生の糧になればと思い企画しました。

7000年前の縄文時代の歴史から、現代に至るまでの多くの資料を、一応照会しました。

時間の関係で消化不良の点があるとは思いますが、見聞きした事を確認しながら以下の通り「まとめ」させていただきます。

記

A) 皆さんは、総合「久住の歴史」地区別チームに分かれています。

1. 荒海 2. 磯部 3. 飯岡 4. 大生 5. 大室 6. 小泉 7. 芝 8. 土室 9. 成毛
10. 水掛 11. 幡谷・久住中央

B) 成田の地名と歴史・大字の歩み「1. 荒海から～11. 幡谷・久住中央」の担当ページを開いて下さい。

ここには、荒海(あらうみ)・飯岡(いのおか)・大生(おお)・・・等の大字の表示位置・地形・人口等のデータ・歴史(原始古代から近代)が記述されています。

「皆で、内容を確認して下さい」

C) 皆で相談して、その地域にあった興味のある事柄をピックアップして下さい。

杉原先生の「利根川を調べてみよう」・大里先生の「図説・成田の歴史」・長尾さんの久住地区全体の写真・檜垣さんの「お寺の縁起本・助崎城と幡谷村」・その他資料も参考にして下さい。

D) 次のように整理して下さい。

※ 「地区の地形」に、「遺跡・寺社・施設等」が表示されています。ここに番号をつけて、選択した事柄を載せて下さい。注釈文も付けて下さい。

※ その他、注釈を加えて、発表したい事柄があれば、別途つけて下さい。

D) 上記内容を、3分間で発表できるようにして下さい。

以上

私達は、皆さんが作成した久住中版「故郷の歴史」を手にも、散歩を楽しみたいと思っています。

「ふるさと散歩の会」

参考として、私が住んでいる大生(おおう)をあげます。

「成田の地名と歴史」で「大生(おおう)を開いてください。

前を成田線、後ろをゴルフ場にそった岡にそって、30軒弱の家がある集落です。江戸中期には、25軒、150人、昭和36年世帯数が30軒人口は、196人から現在は30軒、約60人と推移しています。9割が農業従事者から、現状、実際農業をしている家は、2軒と変化しています。主な名字は、横田(7軒) 根本(8軒)、松島(4軒)があります。

古い屋号は、根古屋、西門、(江戸時代以前)他屋号として、醤油屋、麴屋、桶屋、弁天などがあります。これが現状の歴史の1ページです。

「屋号と名字」

遺跡、寺社、施設等は、そこにある通り、1. 大生城址、2. 横田対山顕彰碑、3. 星神社 4. 共同利用施設があります。

星神社は、妙見様をまつり、村のまもり神となつています。

「妙見様と星神社」「大生城址と周りの城」「横田対山と学問」
妙見様:北極星、北斗七星を神格化した星の信仰。古代中国から
仏教・神道・儒教、複数宗教で祭られている。

神事;おびしゃ 1月20日 星神社で、小御門神社宮司のもとお祓い
「なおりい」(飲み会)を行っています。

※ 小御門神社・・・

その他;花見、盆綱がありましたが、なくなりました。

その他・様々な歴史がでできます。興味があれば調べてみたら。

荒海駅: 日本後記記載 相模～上総～下総～常陸(国府・現石岡)

平安時代初期に編纂された勅撰史書・3代天皇・792年～833年

古事記:712年、最古の歴史書・神話、日本語で物語り一本に纏められている。

太安万侶・稗田阿礼

日本書紀:720年・養老4年、奈良時代に成立した日本の歴史書

漢文で編纂・天皇や国家についての史書

奥の細道:松尾芭蕉 磯部記念碑

天神様:全国に1200神社・学問の神様・菅原道真・太宰府天満宮

地名と現存する氏名

荒海左衛門・海保甲斐守・成毛 00・・・

和算・洋算:明治時代に現在使っている洋算に統一された。

和暦・西暦(B・C); 令和5年=2023年、

令和・平成・昭和・大正・明治からは、天皇一代。

「歴史資料一覧表から、参考になるものを見つけてみたら」

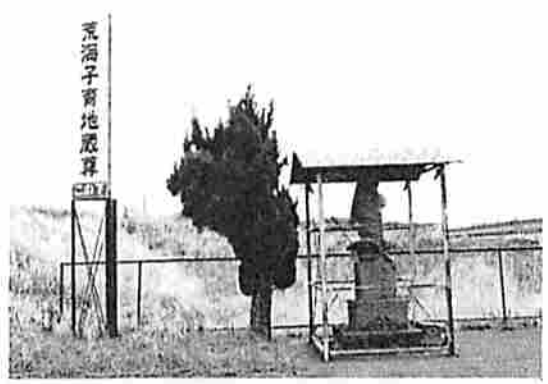
地域の歴史

近世の成田



大なる歴史

荒瀬海 あらうみ



久住の歴史 発表評価カード 2年 組 氏名			
発表者氏名 ()			
①声の大きさ	②資料の出来映え	③発表内容	
とても聞きやすい 3	とても見やすい 3	とてもわかりやすい 3	
まあまあ聞こえた 2	まあまあの出来 2	だいたいわかった 2	
小さかった 1	要点がわかりづらい 1	もう少し詳しく 1	
		コメント	
/ 100点			

大生地区

横田対山顕彰碑

1888年、横田郁太郎が父対山と共に大生斯文塾(私塾)の設置を企図した。横田対山は小学校の教員だったが辞職して帰郷し、1878年に私塾を開いた。横田は「下総に対山あり」と称せられた漢学者である。1917年(大正6年)、門人らによって「横田対山顕彰碑」が長栄寺に建設された。

横田の対山さんが建ててくださった
久住町の「横田対山顕彰碑」の写真



これは昭和53年に建てられた大生共同利用施設です。この施設は築30年を超えていて老朽化が進行しています。施設の利用人数は平成23年の時点で一年間で146名ほどで年々利用客が減少しています。コストも非常にかかるため、今後の方針などを検討する必要があります。

このように創立記念碑もあります！

大生城城跡

大生城は大須賀氏の氏城だと言われています。大生城は東和泉城と荒海城のほぼ中間点に位置していて、大須賀氏は大須賀という地名に残るほどの高い身分の人で、苗字となって今も残っています。

JRの久住駅のすぐ東側にある台地が大生城のあった山である。城跡は詳しい位置やいつ建てられたかなどわかっていませんが現在星神社の境内となっています。



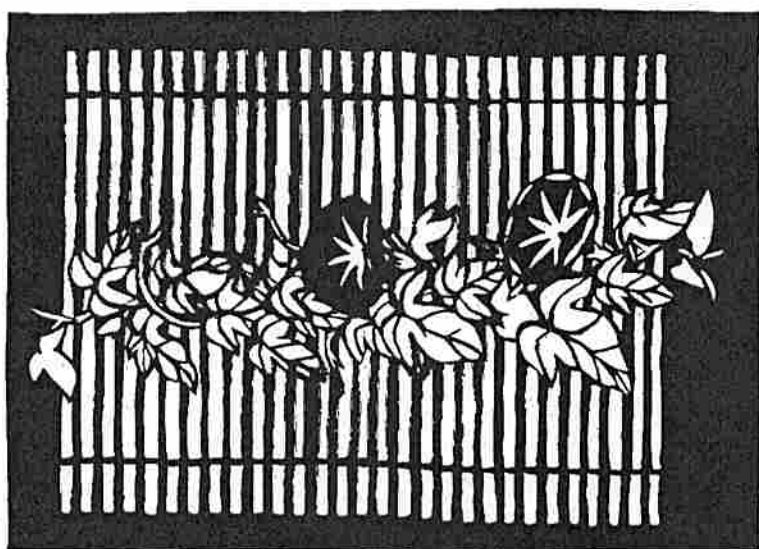
星神社

星神社は久住駅の踏切を超えたところにある神社です。大生の歴史から見ると星神社は明治より前からあったと考えられます。星神社は中世の城跡で大生城と呼ばれていました。星神社は妙見様という仏をまつり、村の守り神となっています。妙見様は星の仏で、中世では武士の軍神で近世では諸願成就の仏として民衆の信仰を集めていました。



資料にもあった久住地区の大生の写真がマップにもありました。これは何か分かりません。

資料② 切り絵




令和元年 (2019)

皇国文化財団 助成金交付事業

佐原囃子連中創立五十周年記念出版

佐原囃子集成

【第三版 楽譜編】



大杉高太郎

5 4 22 45 1 1 ④ ④ ▲ ▲ ▲ ▲ △ △ △ △	2 1 ④ - 1 ④ ④ ④ ④ ④ ④	11 11 12 4 1 1 ④ ④ ▲ ▲ ▲ ▲	2 5 7 5 1 ④ ④ ④ ▲ ▲ ▲ ▲
④ ④ 5 4 1 1 ④ ④ ▲ ▲ ▲ ▲	2 3 5 ④ 1 ④ ④ ▲ ▲ ▲ ▲		

楽譜上の記号は、大杉高太郎の楽譜を基本とし、必要に応じて修正したものである。大杉高太郎の楽譜には、本譜とは異なる記号が用いられている。

大杉高太郎 楽譜編

楽譜の見方

【1】 使用されている記号の種類と意味

記号	使用している記号	内 容
数字	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10	拍子の数または拍子の種類を示す。
○	○	拍子記号
△	△	拍子の数または拍子の種類を示す。
▲	▲	拍子の数または拍子の種類を示す。
④	④	拍子の数または拍子の種類を示す。
⑤	⑤	拍子の数または拍子の種類を示す。
⑥	⑥	拍子の数または拍子の種類を示す。
⑦	⑦	拍子の数または拍子の種類を示す。
⑧	⑧	拍子の数または拍子の種類を示す。
⑨	⑨	拍子の数または拍子の種類を示す。
⑩	⑩	拍子の数または拍子の種類を示す。

【2】 楽譜の読み方

楽譜は、数字・記号・拍子記号で構成されている。数字は拍子の数または拍子の種類を示す。記号は拍子の種類を示す。拍子記号は拍子の種類を示す。

【3】 楽譜の読み方

楽譜は、数字・記号・拍子記号で構成されている。数字は拍子の数または拍子の種類を示す。記号は拍子の種類を示す。拍子記号は拍子の種類を示す。

【4】 楽譜の読み方

拍子	記号	楽譜上の記号	楽譜上の記号
1拍子	1	○	○
2拍子	2	○	○
3拍子	3	○	○
4拍子	4	○	○
5拍子	5	○	○
6拍子	6	○	○
7拍子	7	○	○
8拍子	8	○	○
9拍子	9	○	○
10拍子	10	○	○

【5】 楽譜の読み方

楽譜は、数字・記号・拍子記号で構成されている。数字は拍子の数または拍子の種類を示す。記号は拍子の種類を示す。拍子記号は拍子の種類を示す。

資料④ アンケート結果

項目	事前		事後	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 総合の学習は好きですか。	68.3 %	4.8 %	69.8 %	1.4 %
② 総合の学習で学んだことは、自分の考えや生活に役立っていると思いますか。	62.7 %	7.1 %	84.9 %	4.1 %
③ 体験や学習していることから、課題や目標を見つけることができますか。	61.6 %	8.2 %	63.4 %	7.9 %
④ 調べたり、まとめたりすることは好きですか。	54.0 %	20.5 %	63.0 %	11.1 %
⑤ 身の回りのものやできごとから、調べてみたいことがありますか。	43.8 %	27.3 %	53.9 %	15.1 %
⑥ たくさんの資料から、さまざまなものを集めることができますか。	58.9 %	12.3 %	50.8 %	13.5 %
⑦ 計画的に学習を進めることができますか。	42.4 %	38.3 %	38.9 %	24.6 %
⑧ 他の人の意見を聞く時、自分の意見と比べながら考えることがありますか。	67.1 %	12.3 %	66.6 %	4.8 %
⑨ 他の人の意見や考えを聞き、それを自分の意見や考えを参考にしたことはありますか。	72.6 %	8.2 %	73.0 %	4.8 %
⑩ グループで学習したとき、グループの中で自分の役割と責任を果たしていますか。	82.2 %	4.1 %	65.1 %	4.8 %
⑪ グループで学習するとき、話し合いや会議等で物事を解決していますか。	65.7 %	9.6 %	69.8 %	4.8 %
⑫ 総合の学習を通して、友だちの良さに気づくことがありますか。	72.6 %	5.8 %	77.6 %	2.4 %
⑬ 総合の時間を通して、伝承芸能に興味をもちましたか。			54.3 %	6.9 %

※ 「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3つの選択肢でアンケートをとっている。

事後アンケート「伝承芸能を学習して、伝承芸能に興味をもちましたか」

「『はい』と答えた人は、どんなことに興味をもちましたか」に対する記述

切り絵で、すべて切り終わり白い紙を重ねたときに一気に絵柄が浮かびとこがおもしろいなと思いました。

切り絵や、(郵)物や風景を紙で承すというところに興味を持ちました。

切り絵のせんさいさに興味を持った。

その芸能の独自の進化だったり伝えられたものに興味を持った

いろいろな地域などでこの大変なことをやっていることがわかるきっかけにもなると、年々伝承芸能が少なくなっているからこの学習をすることはとてもいいことだと思いました。

ただ物としてあるだけでなく、みんなが受け継いでいくことで感知するものになるんだなと思ったから。

今回は1種類(曲)のみの演奏体験だったので、他の曲を聴いてみたい、吹いてみたい

と思いました。

外国の楽器と似てるように違う独自の楽器・音・リズムに
改めて感心しました。

この学習をしたければ、知る前からしたてたことしかなくて、
なので、こんな文化があつたのかと思ひました。もっともっと
いなと思ひました。

- ・古くから伝えてこられたものを体験できただけだ。
- ・普通は、下手な楽器を扱うことかできた。

- ・どのように受け継がれてきたのか??
- ・伝承芸能にふれるのが楽しくなつた。

佐原唯子とや、たけれど、ふえをふく貴重な体験ができて、
お祭りでえん奏している他の楽器もやってみたいと思つた。
どんな楽器があるのかお祭りの時ほどに深めておこうと思つた。

音の出る同じ楽器でも、深い歴史がある事が分
かりました。(佐原唯子)

切り絵がすごく細くて時間のかかる作業だ、たけれどとても楽しかった。
これを何枚もつくっている人のすごさを感じた。